

7月6日

|                                                 |                         |            |        |
|-------------------------------------------------|-------------------------|------------|--------|
| 06:30発                                          | 金谷宅出発(タクシー)→上村→麻生バス     | タクシー5,000円 | 5,000円 |
| 07:00発                                          | 麻生→新千歳空港                |            |        |
| 09:00発                                          | 新千歳空港→羽田(10:30着) ADO14便 |            |        |
| 11:00発                                          | 羽田→新宿(羽田→品川→新宿)         |            |        |
| 12:00                                           | 片平議員と合流                 |            |        |
| 12:41発→13:45着<br>13:01発→14:05着                  | 新宿→秦野市(小田急小田原線)         | 700円×3     | 2,100円 |
| 14:30                                           | 秦野市(電動自走式ロープウェイ視察)      |            |        |
| 16:48発→17:24着<br>16:59発→17:37着<br>17:07発→17:44着 | 秦野→町田                   | 390円×3     | 1,170円 |

宿泊地

レンブラント町田東京都町田市原町田3-2-9  
TEL.042-724-3111

8,270円

7月7日

|             |                          |        |        |
|-------------|--------------------------|--------|--------|
| 9:00        | ホテル出発→神奈川県大和市            |        |        |
| 10:30~12:00 | おひとりさま支援条例(大和市役所)        |        |        |
| 12:00~13:30 | 昼食                       |        |        |
| 13:30~15:00 | 不登校特例校分教室(大和市立柳橋小学校)     |        |        |
| 終了後         | 大和駅(相鉄本線特急)→横浜(京浜東北線)→蒲田 | 510円×3 | 1,530円 |

宿泊地

蒲田R&B 東京都大田区蒲田5丁目23-1  
TEL.03-5480-1515

1,530円

7月8日

|        |                           |        |        |
|--------|---------------------------|--------|--------|
| 10:00  | チェックアウト                   |        |        |
|        | 蒲田(京急空港線)→羽田空港 所要時間10~11分 | 250円×3 | 750円   |
| 13:50発 | 羽田空港→新千歳空港(15:20着) ADO25便 |        |        |
| 15:48発 | 新千歳空港→麻生                  |        |        |
| 17時頃   | 麻生からタクシー                  |        | 5,000円 |

5,750円

16,000円

## ○ 視 察 先

(1) 神奈川県大和市（人口 243,573 人(R6.3) 市域面積 27.09 km<sup>2</sup>）

### ① おひとりさま支援条例

#### 【調査項目】

1) 「おひとりさま支援条例」について

#### 【内 容】

調査項目 1)「おひとりさま」とは、大和市の条例では「ひとり暮らしの市民であって、年齢を重ねたことにより他者や社会との関わりを必要とするもの」とされている。おひとりさま支援が必要な理由は、おひとりさまの健康の為である。

大和市は東京都心から約 40km 圏内に位置し横浜市等と隣接した都市で、市内には鉄道 3 路線 8 駅がある他、東名高速道路や国道 16 号線、246 号線などが通っている。市域のほとんどが鉄道の駅から徒歩 15 分圏内に収まっており、高い交通利便性を誇っている。また、市立病院、スポーツセンター、下水処理場、ごみ焼却場、火葬場、河川、大規模緑地、ショッピングセンター、大規模図書館等、様々な機能がコンパクトに集積している都市であり、高い人口密度を誇っている。その都市機能の利便さ故、若年層の市民が多く居住しているが、一方でまた独居高齢者も多く居住している都市でもある。

孤立と閉じこもり傾向にある高齢者はそうでない高齢者に比べて 6 年後の死亡率が 2.2 倍にも達するという調査結果がある。高齢者の外出や社会交流の促進に取り組むことがおひとりさまの健康にとって必要不可欠なのである。

「おひとりさま支援条例」では

- ① おひとりさまに関する普及啓発
- ② おひとりさま及びその家族への相談支援
- ③ 外出及び社会的交流の支援
- ④ 情報の収集及び提供

を行うことと定めている。

また、「これ一冊あればひとり暮らしもひと安心！」と題した保存版生活お役立ちガイドを配布しており、救急時、災害時、生活支援、介護保険、健康づくり、財産管理、葬儀、相談窓口等、困りごとに応じた行動指針や連絡先がイラスト入りでわかりやすくまとめられている。

#### 【所 感】

石狩市においても市民の高齢化率は年々上昇を続けており、独居の高齢者いわ

ゆる「おひとりさま」の増加が見込まれる。そのような市民の健康寿命を伸ばす為にも外出の機会確保や社会交流の促進に取り組む必要はおおいにある。

また、石狩市においても様々な困りごとに対する相談窓口がそれぞれ存在しており、個別に市民への周知がなされているが、大和市で配布されているような小冊子 1 冊にまとめることにより家庭に常備してもらい日常的に活用して頂く事が可能となると感じた。

## ② 不登校特例校分教室

### 【調査項目】

#### 1) 不登校特例校分教室について

### 【内 容】

調査項目 1) 学校に通うことが出来ていない児童生徒、いわゆる不登校の児童生徒の中には、必ずしも以前通っていた学校への復学を希望しない児童生徒が一定数存在する。その様な児童生徒の受け皿として、心機一転新しい環境での学びの場を提供することを目的として、まずは中学生を対象とした不登校特例校分教室が設立された。既存の小学校の中の一部使用されていない校舎を改築して小学校の玄関とは反対側の面に不登校特例校分教室の玄関を作り、不登校特例校分教室以外の児童生徒とは顔を併せないで登下校できるように工夫されている。また、その日の気分や体調に合わせて無理なく自分のペースで学習が進められるよう配慮されており、校舎内のカラーリングも含めてリラックスして学校生活を送ることが出来るよう配慮されている。トイレは生徒の希望も取り入れ、特に明るく清潔に改装されており、気分が落ち込まないよう工夫されている。

### 【所 感】

不登校になってしまった児童生徒の中には学校における人間関係に躓いているケースが少なからずあり、学校に行く必要性は本人も感じていながらも以前の学校には戻りたくないと考えている事例は少なくない。その様な児童生徒の受け皿として、心機一転新しい環境で学ぶことの出来る場を選択肢の一つとして提示することは、不登校解消の一つの解決策として有効であると感じた。また、使われなくなった既存の校舎の一部を利活用することにより校舎建設コストを大幅に抑えることにも成功しており、石狩市においても今後学校の統廃合等で校舎に余裕が出来た際には有効活用の一つの手段として検討に値すると感じた。

11月13日

|               |                               |          |        |
|---------------|-------------------------------|----------|--------|
| 07:30発        | 金谷宅出発(タクシー)→上村→片平→麻生バス        | タクシー     | 5,000円 |
| 08:00発        | 麻生→新千歳空港                      |          |        |
| 10:25発        | 新千歳空港→中部国際空港(12:20着) JAL3106便 |          |        |
| 12:30         | 空港で昼食                         |          |        |
| 13:47発→14:54着 | 中部国際空港→名鉄岐阜                   | 1,730円×3 | 5,190円 |
| 15:00発→15:10着 | 名鉄岐阜駅→岐阜市役所                   | タクシー     | 2,000円 |
| 15:15→16:30   | 視察                            |          |        |
| 17:00→17:30   | 岐阜市長                          |          |        |

宿泊地

ドーミイン岐阜

岐阜県岐阜市吉野町6-31

16,030円

058-267-548-

11月14日

|             |                                                    |                  |                |
|-------------|----------------------------------------------------|------------------|----------------|
| 10:00発      | ホテル出発→岐阜市役所                                        | タクシー             | 2,000円         |
| 10:30~12:00 | 岐阜市役所視察                                            |                  |                |
| 12:00~13:00 | 昼食                                                 |                  |                |
| 13:00~15:00 | 岐阜市役所視察                                            |                  |                |
| 終了後         | 岐阜駅(JR東海道線)→名古屋<br>岐阜駅発時刻 15:13発、15時23発<br>名古屋駅→栄駅 | 470円×3<br>210円×3 | 1,210円<br>630円 |

ルートイン名古屋栄

宿泊地

愛知県名古屋市中区栄4丁目7番12号

TEL.052-259-7300

3,840円

11月15日

|        |                      |          |        |
|--------|----------------------|----------|--------|
| 10:00  | チェックアウト              |          |        |
|        | 栄駅(地下鉄)→名古屋駅         | 210円×3   | 630円   |
|        | 名鉄名古屋駅→中部国際空港        | 1,250円×3 | 3,750円 |
| 13:10発 | 中部国際空港→新千歳空港(14:50着) |          |        |
|        | 新千歳空港→麻生             |          |        |
| 16:30頃 | 麻生からタクシー             |          | 5,000円 |

8,380円

## ○ 視 察 先

(1) 岐阜県岐阜市（人口 395,437 人(R6.3) 市域面積 203.60 km<sup>2</sup>)

### ① みんなの森 ぎふメディアコスモス

#### 【調査項目】

1) 多文化交流プラザの取り組みについて

#### 【内 容】

調査項目 1) 岐阜市の国際交流・多文化共生推進の中核的な場所として「みんなの森 ぎふメディアコスモス」内に設置。日本人市民と外国人市民の“交流”“学び”“創造”の場を創出。市国際課と（公財）岐阜市国際交流協会が連携して運営。多文化交流プラザを中心に、様々な国際交流・多文化共生推進事業を実施している。外国人市民向けの相談窓口も英語、タガログ語、中国語、ポルトガル語、ベトナム語でそれぞれ開設されている。また外国人市民向けには日本語講座や気軽に日本語での会話を楽しむ「日本語くらぶ」を開催している。その他、児童、生徒、学生向けの英語交流イベントや、外国の文化や言語を紹介するイベント「旅する気分で♪」も開催され、市民間の異文化交流が図られている。

#### 【所 感】

石狩市にも中国人、ベトナム人、ロシア人といった外国人市民が少なからず居住しており、岐阜市の取り組みを参考にしつつ多文化交流の充実を図ることが石狩市における市民サービスや文化レベルの向上につながると感じた。

### ② 中心市街地の道路空間利活用の社会実験

#### 【調査項目】

1) 中心市街地における道路空間利活用を通じた賑わい創出について

#### 【内 容】

調査項目 1) 市全体が発展するためのエンジンとなる「都市の顔」ともいうべき“岐阜市センターゾーン”。このセンターゾーンの回遊性を高めることが、中心市街地全体の魅力の向上へとつながる。そこで岐阜市では、中心市街地の道路空間をより活きた空間、魅力的な空間として利活用できるよう「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくりを目指し、道路空間の在り方について市民からのご意見などをもとに検討を進めてきた。

## 【所 感】

岐阜市では市内中心部を貫く片側 4 車線の大動脈である金華橋通りの一部車線をバス専用レーン、また一部車線を歩行者天国とすることにより「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくりを目指している。かつては全国有数の繁華街として名を馳せた「柳ヶ瀬商店街」周辺にも新たに人の流れを作ること、岐阜市のみならず、岐阜県全体の活性化を目指している。

石狩市には鉄道の駅がなく、誰にでもわかりやすい市の顔というべき、ずば抜けた中心部が存在しない。石狩市の更なる発展の為には多くの市民が集い賑わうまちの中心核を構築するのも有効な手段の一つであると考えさせられた。

## ③ 不登校特例校「草潤中学校」

### 【調査項目】

#### 1) 不登校特例校の取り組み状況について

### 【内 容】

調査項目 1) これまでに不登校を経験した生徒のありのままを受け入れ、個に応じたケアや学習環境の中で心身の安定を取り戻しつつ、新たな自分の可能性を見出すことを目指している。

## 【所 感】

草潤中学校は岐阜市内中心部にありながら都市のドーナツ化現象により廃校となった学校の校舎を活用した、不登校を経験した生徒の為の学校（特例校）である。定員は各学年とも 10 名程度に絞り、きめ細かい対応を目指している。毎日必ず登校する必要はなく、①一人一台配布されているタブレット端末を活用し自宅でオンライン等を主として学ぶ、②週に数日登校する、③毎日登校する等、個々に応じたやり方で学習を進めることが可能なカリキュラムとなっている。また、朝の登校時には無人の教室に設置された端末で当日の朝食の摂取状況や体調の良し悪し等を自己申告し、検温データも合わせて学校側のサーバーに転送され記録されるシステムとなっている。その自己申告の体調に考慮してその日一日教師が柔軟に対応している。給食はないのでお弁当を持参するか、業者のお弁当を各自登校してから注文することが出来る。

石狩市では不登校児童生徒とその保護者を対象として、適応指導教室「ふらっとくらぶ」を開設しているが、さらに一歩踏み込んで不登校特例校を開設しケアに当

たると不登校支援に一定の成果が出ると感じた。

## 人口減少と共存する方策 セミナー

関東学院大学法学部地域創生学科 牧瀬 稔 氏

令和6年1月28日

改革市民会議 上村 賢

北海道の人口は2020年には522万人余りでしたが、2050年には382万人となる見込みです。人口の減少に伴い2050年には、すべての市区町村のうち、3分の2を上回る122の自治体で人口が5000人未満となります。15歳から64歳までの生産年齢人口は、2020年のおよそ299万人から減少を続け2050年には186万人余りとなります。また65歳以上の高齢者の割合は増加を続け、2050年には42.6%となります。一方、高齢者の人口でみると、2020年のおよそ168万人から2040年にはおよそ172万人余りに増加しますが、その後は減少を続け、2050年にはおよそ163万人となるとの報告がされています。そのような状況下で、今後どのようなまちづくりを考えていかなくてならないのか、しっかりと中長期で考えていかなくてならない。

- ① コンパクトシティ→空間的に小さいながらも、都市機能が充実している地域作り。住まい、職場、学校、病院、遊び場などさまざまな「機能」を都市の中心部にコンパクトに集めることで、自動車に頼らず、歩いて生活のできるまち。効果→費用の縮小(インフラ整備等も圧縮できる)  
青森市が目指している

課題→コンパクトシティから外れた住民をどうするか

実現するには数十年の期間がかかる

行政の継続性が前提となる→首長の多選か条例化が必要

- ② 交流人口の増大

定住人口1人当たりの年間消費額は、旅行者の消費に換算すると外国人旅行者8人分、国内宿泊旅行者25人分、国内日帰り旅行者80人分にあたるといわれている。→交流人口が人口減を補う可能性がある

- ③ ブランドの効果

- ・ブランド化されると選ばれる可能性が高まる

- ・ブランド化は、支払う費用を上乗せできる。支払うことが、当事者のとり「価値」となる。

・多くを支払うことができる層が集まるため、ブランド化に成功すると、上位層が集まる可能性が高まる

●●●市町村と言えは・・・

???→これを構築していくのが地域ブランド

そのためにも、ブランドメッセージのポイントを持つ

※すべてを網羅するのではなく、ターゲット層、コンテンツなどにより使いわけ。

#### ④ シビックプライドへの期待

人口減少下における定住人口の維持

・シビックには「権利と義務を持って活動する主体としての市民性」という合意がある

・そこからシビックプライドには、自分自身が関わって都市や地域を良くしていこうとする、当事者意識に基づく自負心が内包される。

このよう考えをしっかりと考えて、今後のまちづくりを進めることも必要とおもえる。

「東京など大都市では人口が維持され、一方、地方では人口が激しく減少する両極端の推計になっている。特に人口減少のペースが早い地域は、これまで使っていたインフラや公共交通機関が過剰なサービスにならないか、人口の規模に見合うよう見直すきっかけにしていくべきだ。一方で、高齢者を中心に地方で暮らす人の生活の質が落ちないようにすることも課題となる」

さらに、地方の人口減少を止めるためには企業の役割が重要だと指摘します。

「若い世代が一方的に地方から流出してしまう状況を食い止めるためには、企業の役割は非常に重要で、新たな投資を行って地域で事業を継続・発展させ、雇用を生み出していくことが必要だ。特に今は女性の東京への流入が多く、今後、想定以上に子どもが減る地域が出てくることも考えられる。女性の雇用をどう生み出していくか地域で問題意識を共有して、行政も民間企業も地域全体で考え、対応していくことが必要なのではないか」と考える。

研修受講日時：2024 年 2 月 9 日（金）

研修テーマ：防災・危機管理に関する質問の仕方

講師：地方議会研究会 総括コンサルタント

元廿日市市副市長 川本 達志 氏

## 【所 感】

### ＜防災・減災質問の心構え＞

防災の質問は、地域防災計画を基本資料として質問する。計画の中身は、災害時に実行されなければならないことは言うまでもないことで、その準備が出来ているかということが基本になる。

また、自助、共助が強調される防災・減災対策にあつては、行政が情報を広く、わかりやすく広報・周知することが重要。

防災・減災は、ほとんどの住民に災害被災の経験がない中での対策なので、知識と情報が重要だが、これらを信頼をも持って伝えることが出来るのは行政しかない。防災・減災は、その準備から緊急時の対応まで、「正常性バイアス」（自分にとって都合の悪い情報を無視したり、過小評価したりしてしまう人の特性のこと。「自分は大丈夫」「今回は大丈夫」「まだ大丈夫」などと過小評価したりしてしまい、逃げ遅れの原因となる）が邪魔するので、しつこいくらいの啓発が必要と認識すべき。

### ＜防災に関する質問＞

- ・地域防災計画の策定と広報
- ・インフラ整備（防波堤、防潮堤、砂防堰堤、河川護岸、海岸護岸、耐震補修等）
- ・防災教育と訓練（特に、防災に関する知識がどの程度普及しているか、実態を知るべきではないか？調査は必要ないか？）
- ・自主防災組織の組織化支援と連携
- ・消防団加入促進（具体的に首長の活動を問う）
- ・防災基本条例の制定について

### ＜減災に関する質問＞

- ・避難計画（経路及び避難所）及び広報・周知
- ・避難所の環境整備（寒暖への対応、備蓄体制、プライバシーなど）
- ・職員、地域が共有する災害対策マニュアルの策定
- ・行政機関等が緊急時に機能を果たすことができる準備（BCP 計画）
- ・災害ボランティア受け入れ態勢の準備
- ・防災・減災は、まず自助ということを周知（耐震化、家具などの固定、防災グッズの準備、避難箇所の特典など）するための方策

研修受講日時：2024 年 2 月 9 日（金）

研修テーマ：歳入に関する質問の仕方

講師：地方議会研究会 総括コンサルタント

元廿日市市副市長 川本 達志 氏

### 【所 感】

＜歳入に関する質問の心構え＞

歳入の現状を確認する。

歳入財源 一般財源と特定財源（自由に使えるかどうかの分類）

#### 《一般財源》

使途が特定されず自由に使うことの出来る財源（一般市・町村）

- ・ 地方税（都市計画税を除く）
- ・ 地方交付税
- ・ 地方消費税交付金
- ・ 地方譲与税
- ・ ゴルフ場利用税交付金
- ・ 利子割交付金
- ・ 地方特例交付金
- ・ 株式等譲渡所得割交付金
- ・ 交通安全対策特別交付金
- ・ 自動車取得税交付金
- ・ 配当割交付金

自由に使える一般財源が増えることによって、自治体独自の政策・施策が展開でき、公共事業投資も継続的に可能になる。主要なものは、地方税、地方交付税、地方消費税交付金

#### 《特定財源》

使途が特定されている財源

- ・ 分担金・負担金
- ・ 手数料
- ・ 国庫支出金
- ・ 都道府県支出金
- ・ 使用料（一部一般財源）
- ・ 財産収入（一部一般財源）
- ・ 寄附金

- ・繰入金
- ・繰越金
- ・諸収入（一部一般財源）
- ・地方債

研修受講日時：2024年2月9日（金）

研修テーマ：財政比較分析を質問に活用する

講師：地方議会研究会 総括コンサルタント

元廿日市市副市長 川本 達志 氏

### 【所 感】

＜これからの自治体財政の考え方＞

○地方財政を取り巻く課題

- ① 公共施設・インフラの老朽化と過大化
- ② 人口減少・高齢化に伴う扶助費、介護費の増と税収減
- ③ 自然災害、感染症などのリスクによる一時的財政需要拡大
- ④ 第3セクター、公社等の経営悪化

○財政は手段であるが、人材とともに目的を達成するために不可欠の要素

- ① 現状の財政状況を分析
- ② 財政分析指標による評価
- ③ 総合計画・実施計画を前提に財政シミュレーション（財政計画）の策定
- ④ 評価を、実施計画、定員管理計画、公共施設等管理計画に反映

＜財政状況資料集＞

- ・地方公共団体の財政に関するデータが詳しく網羅されている
- ・類似団体との比較ができ、自団体の状況が確認できるので、客観的評価が出来る
- ・データを分析することで、将来の財政運営の基本的方針を立てることが出来る
- ・地方債残高と公共施設の老朽化比率のクロス分析も可能

＜類似団体比較表＞

- ・類似団体との歳入歳出の比較が一覧できる